

自己評価

【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和6年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

子育て支援

		結果	左記項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
子育て支援	保護者からの様々な相談を受けるにあたっては、プライバシーの保護や守秘義務を守って適切な態度で行えた	5	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんを連れて利用されるお母さんの子育ての悩みを一つ一つ受け止めながら、さまざまな方法を丁寧に伝え、理解していただけるよう時間をかけた。 ・しっかりと関わることでお母さんの表情が和らぐと子どもの笑顔も多く見られるようになり、子どもの豊かな成長へと繋げる支援を行うことができた。
	保護者への助言の際には、保護者自身が理解、納得し、行動に移してもらえるように努められた	3	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターは保護者と密に関わることができる場であるので、ガーデンなどゆったりと過ごせる時にお母さんの話に耳を傾け、子育てを前向きに楽しめるような支援を続けていく。
	適切な体制（内部体制・外部との協力：その状況に応じて）により、子育て支援が行えた	4	
	子どもの最善の利益（各状況において具体的なもの）を捉えた支援ができた	4	
	教育及び保育における活動に対する保護者の積極的な参加を促すことができた	5	
	各家庭や園児、保護者等の状況に応じ、個別の支援が行えるよう努めることができた	3	
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援が適切に実施できた	5	

自己評価

【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和6年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた 4：よくできた
3：できた 2：ややできなかった 1：できなかった



		結果	左記項目内の、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
別 冊	環境及び衛生管理		・冬場の湿度は、基準値より下回っていることが多い。午睡中の調子が暗いため、調整が必要。 ・手指消毒は、次亜塩素酸水を用いている。子どもの手に触れて危険な消毒薬などは、施設管理されている。
	室内の温度等の調整、換気、明るさ、音の大きさ等に配慮して、心地よく過ごせる環境を整えている	3	・年始や中途入職職員へ感染症や衛生管理に関するの勉強会を実施し共通認識・対応ができるようにしている。 ・嘔吐処理や排泄介助は、用途に応じ使い捨て用品を使い分け感染防止拡大へ注意を払っている。介助後の用品消毒・手洗いも実施している。
	消毒薬などは園児の手の届かない場所で保管、管理している	4	・調乳や食事前の手洗い、消毒の実施。0・1歳の食事介助では子どもが変わるごとに職員の手指消毒を実施することとなっている。 ・職員は自らの健康に留意し、感染症が疑われる症状の場合は、医療機関へ受診するよう心がけ、感染源とならぬよう気をつけている。
	職員が感染症及び衛生管理に関する知識と適切な対応方法を日頃から身につけられるようにしている	4	・食事前に手洗い、手指消毒の実施をしているが待機時間に床や物を触る、鼻に手をかけていたりすることもあり今後も声掛けが必要。 ・食中毒の内容と対処のマニュアルは作成されているが、更新時に随時周知している。保護者へ献立でシーズンに周知を行っている。
	嘔吐物や糞便等の処理に当たっては、使い捨てのマスクやエプロン、手袋等の使用や手洗いの徹底など感染防止のための処理を徹底している	5	・毎朝環境整備にて、園庭・遊具の安全点検を実施し朝礼で全体に周知を行っている。使用する際も点検をしている。 ・園外活動では、事前に職員が下見に行き注意個所を把握、散歩コースを定め注意個所を共有し安全な活動を目指している。
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒を行う等、衛生管理を十分徹底している	4	・散歩マップ、遊具の決まり事、ハザードマップなどHP上に職員周知欄を作成し周知している。 ・安心安全会議にてヒヤリハット、事故報告を分析・振り返りをし予防策・対応策を検討し、議事録の配信にて全職員へ周知している。
	全職員は自己の健康管理に留意し、感染源が疑われる場合には、自らが感染源にならないよう、適切に対処している	4	・SIDSチェック表の活用(0,1歳)、水遊び前に導入案の検討、窒息・CPA対応方法の実技指導を通じ、職員が緊急時対応を把握できるように努めている。 ・防犯訓練(年7回うち警察署立ち合い1回)、CPA対応方法の実技指導を通じ、職員が緊急時対応を把握できるように努めている。
	食中毒の予防に向けて、日常的に、園児が清潔を保つための生活習慣を身に付けられるよう取り組んでいる	4	・防火設備点検は、法令に準じ実施している。避難経路など荷物が置いてあることあるので安全な避難ができるよう意識を向けている。 ・備品や遊具等の点検を行うことで、安全環境が提供できるよう留意し、修繕が必要な個所は随時実施をしている。
	食中毒が発生した場合に備えて、食中毒発生に関する対応マニュアルを作成し、全職員へ周知している	4	・防災計画の見直しを前年度の振り返りをもとに実施、改定している。 ・避難訓練は毎月(9月は保護者協力にて引き渡し訓練、11月は消防署指導下)、防犯訓練は不定期にて年7回実施している。
	事故防止		・警察署(防犯訓練)、消防署(避難訓練)、保護者(引き渡し訓練)にご協力いただき訓練をしている。 ・有事の時は一斉メールにてお知らせし、引き渡しカードを利用してスムーズな受け渡しができるようにしている。 ・防犯・避難訓練の時は、年に1度通報訓練も設け警察署・消防署と連携している。また、訓練以外でも、必要な連携はとるようにしている。
	日常の安全管理として遊具等の安全点検表を作成して定期的に点検している	4	
	園外での活動に際して、工事箇所、交通量、その他の危険性について事前に把握し、安全な活動にできるよう努めている	4	
	事故防止のため、日常どのような点に留意すべきかについて事故防止マニュアルを作成し、周知を図っている	4	
	日常的な事故予防として、ヒヤリ・ハットした出来事を記録、分析し、事故予防対策に活用している	4	
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の場面(重大事故が発生しやすいもの)について、その場面に応じた適切な対応を行っている	4	
	重大事故や不審者の侵入等の危機管理について、緊急時の対応マニュアルを作成し実践的な訓練等を通じて、全職員が把握できるように努めている	4	
	災害への備え		
	危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的に安全点検を行った	5	
	備品、遊具等の配置、保管を適切に行い、日頃から、安全環境の整備に努められた	4	
	危険等発生時対処要領に緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担、避難訓練計画等の事項を盛り込み必要に応じて改訂している	4	
定期的に避難訓練等を実施している	5		
避難訓練について、地域の関係機関や保護者との連携の下に行うなど工夫している	5		
災害発生時の保護者等への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう、連絡体制や各方法を決めている	5		
地域の関係機関との連携を図り、必要な協力が得られるよう努めている	4		

自己評価 【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和6年度> とねの会こども園

健康

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた 4：よくできた
3：できた 2：ややできなかった 1：できなかった

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
健康	健康状態や発育及び発達の状態の把握		<ul style="list-style-type: none"> ・園児の視診を園生活を送る中でも行い、異常の早期発見ができるよう注意を払っているが、気付きが遅くなり高熱となっていることもある。 ・成育歴や罹患歴等は入園、進級のタイミングで保護者の方へ記入・更新していただき必要な情報は保護者に確認し把握し、情報は施錠管理している。 ・心身の機能の発達については担任や臨床心理士、関係行政機関並びに保護者の意見も把握した上で総合的に判断を行っている。
	各園児の機嫌、食欲、顔色、活動性等を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	4	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて園児の心身状況を保護者へ伝え、留意事項の説明もを行っている。 ・年に1度保健計画を策定し、計画に沿って実施している。
	各園児の成育歴や罹患歴等に関する情報を保護者の理解を得て把握している（情報の取り扱いには秘密保持義務を果たすよう留意している）	5	<ul style="list-style-type: none"> ・園児は、1回/年の歯科検診、2回/年の内科検診を実施している。職員は、1回/年の健康診断を実施している。 ・体調不良や負傷を生じた場合は、保護者へ状況説明を行っている。状況に応じて医療機関を受診を検討してもらっている。
	心身の機能の発達については、安易に予測や判断をしないよう努め（様々な要因の影響があるため）、丁寧な観察等を通して把握している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・救急対応が必要となる症状の際は、迅速に判断し職員が協力し合って対応している。 ・空気感染をする感染症を疑う場合は、別室にした上で迎えの要請をし医療機関へ相談するよう依頼している。診断後はメールにて全体周知している。
	園児の心身の状態について、日々、必要に応じて保護者に報告し、留意事項なども必要に応じて助言している	4	<ul style="list-style-type: none"> ・介助が必要な乳児は、保育教諭が寄り添い行い、幼児より手洗い指導を実施し正しい手洗い方法の習得に向け援助している。 ・感染物の処理では手袋を装着し対応、脱着後手洗いとなっている。しかし、突発的な鼻血や嘔吐に関しては素手で対応してしまうことが多い。
	健康増進		<ul style="list-style-type: none"> ・血液等が触れた場所は拭き取り後、次亜塩素酸Naにて消毒対応している。 ・ほけんだよりにて予防接種の推奨をしている。
	保健計画を策定し、実施している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時、進級前に書類の更新を依頼している。予防接種の遅延が見られる場合は、保護者へ情報共有を行い、行政や医療機関へ相談していただいている。
	健康診断を実施している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法に基づく感染症に罹患された場合、定められた出席停止期間のお休みを家庭にも協力していただいている。 ・投薬を基本的には実施していないが、頓服の内服薬は与薬管理表に必要事項を記入し薬情を添付しお預かりをしている。
	疫病等への対応		<ul style="list-style-type: none"> ・お預かりした薬は、保健の棚にて保管し子どもの手に届かないよう個々に色分けし保管している。 ・年に1回、AEDの使用方法及び心肺蘇生法、アナフィラキシーや緊急時の対応方法、異物除去法など実技指導を消防署を招き実施している。
	在園時に体調不良や傷害が発生した場合、保護者に園児の状況等を連絡し、適切な対応をとっている	5	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児は、SIDSチェック表を用いて5分おきに危険因子のチェックをし補正することで、乳幼児突然死症候群の予防に努めている。
	高熱、脱水症、呼吸困難、けいれんといった症状の急変や事故などの場合には救急対応として救急車の出動を要請するなど状況に応じて迅速に対応している	5	
	空気感染する感染症（水痘、麻疹、結核）が疑われる場合には、他の園児たちと離し、換気を行い、保護者に連らくし受診をすすめる	5	
	接触感染対策として適切な手洗いをし、正しい手洗いの方法を身につけるようにしている	3	
	人の血液などを介して感染する感染症の予防として血液や体液（喀痰、流水、尿、糞便等）などに触れる時には必ず使い捨て手袋を着用し手袋を外した後は流水と石けんで手洗いをしている	3	
	血液等が触れた場所は消毒している	5	
	予防接種の勧奨として、保健だより等にて情報提供を行っている	4	
	園児一人一人の予防接種歴や感染症の罹患歴を把握し、保護者等との情報共有に努めている	4	
	感染症の疑いのある園児に対し、他の園児との接触がないよう配慮する等、適切な処置、対応をしている	4	
	学校伝染病として定められた感染症に罹患した園児が登園を再開する場合、学校保健安全法に基づく出席停止期間を守っている	5	
	園児に薬を与える場合、医師の診断及び指示による薬に限定し、医師名、種類、方法を具体的に記載した与薬依頼票を持参してもらっている	5	
保護者から預かった薬については、施錠管理する等、他園児が誤って内服しないようにしている	5		
AED講習を実施するなどし、救急蘇生法等にて職員全員が理解できるようにしている	5		
乳児は必ずあおむけで寝かせるなど、SIDSの危険因子が無いようにしている	4		

自己評価 【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和6年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

食育

		結果	左記項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
食育	園児が生活と遊びの中で意欲をもって食に関わる体験を積み重ね食べることを楽しみ食事を楽しみ合う園児に成長していくことを期待して食育に取り組むことができた	5	・畑の野菜、果樹など収穫した作物を使用した給食や毎月のクッキングで作った料理を給食やおやつで楽しみながら食べた。
	食事の提供を含む食育の計画を作成し、指導計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努められた	4	・さまざまな食材や味付け、季節を感じる献立作成を実施し食事を楽しみながら食べられるようにした。 ・食育計画に基づいて、おおむね計画を実行できた。食の計画を実施した際は、その計画に関わった職員で反省し、次年度に反省を生かして実施できるようにした。
	園児が自らの感覚や体験を通して自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように園児と調理員等との関わりや調理室など食に関する環境に配慮できた	5	・クッキングでは毎月、月齢に合わせて食事作りを体験した。給食室見学や体のひみつなどの食についてのお話などを通して調理員との関わりを持ち、食に関する環境に配慮できた。
	多様な関係者との連携や協働の下で、食に関する取組が進められた	5	・保育士・看護師と協力しながら、クッキングや野菜の栽培、箸指導等の食育活動に取り組めた。 ・会議等で情報を共有したり、保育士と相談したりして対応が必要な子どもには一人ひとり対応し安全に給食提供が行えた。
	一人一人の対応が適切に行えた	4	・完全除去を基本とし、給食室で組織的にアレルギー対応を行った。新年度前には給食室内でアレルギー対応を再確認している。
	食物アレルギー対応は、安全、安心な生活を送ることができるよう、完全除去を基本として園全体で組織的に行えた	4	・新しい職員が入职した際は給食室から新人職員研修を行い、園全体でアレルギー対応を安全にできるように周知している。 ・会議等で情報を共有し、適切に対応できた。
	園児一人一人の心身の状態等に応じ、保護者との相談や医師等の指示や協力の元に適切に対応できた	4	・看護師のエピペンの研修に参加し使用方法について理解した。 ・新しい食品等を使用する際は給食室全員でアレルギー表示を確認し、リスクの高い食物は代替えを考え、アレルギーの誤食が起こらないよう工夫した。
	アナフィラキシーショックへの対応について、エピペンの使用方法を含めて理解できる取組が行えた	4	・献立表のおたよりにレシピの記載やコラム等で情報提供を行った。 ・給食の見本の展示を行い、子どもたちがどのような給食を食べているか、親子で楽しめるようにした。 ・支援センターでは離乳食等の食事のお話会やランチの提供を行い、地域の保護者の子育て支援に協力した。
	食物アレルギー症状を誘発するリスクの高い食物を使わない等様々な配慮や工夫を行えた	4	
	食を通じた保護者への支援が行えた	5	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ほんび

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
満 3 歳 以 上 の 園 児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	5	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の時間や日々の生活の中で、自分の体に興味を示し病気になるためにどんなことを気をつければ良いのか、また自分の身体能力を高めながらけがをしないためにはどんなことに注意したら良いのかを知ることができた。 ・危険な場所、危険な遊びがわかり、お互いに声掛けしながら行動することができた。 ・避難訓練、防犯、水害訓練を繰り返し体験することで保育教諭の指示をしっかりと聞き、安全に参加することができた。 ・物の管理、片付け、共有の物・自分の物の理解については個人差が大きく、個別に対応することがあった。大切に使うという子もいたが乱雑になってしまうこともめずらしくなかった。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5	
	進んで戸外で遊ぶ	5	
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	5	
	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	5	
	健康な生活のリズムを身に付ける	5	
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4	
	とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見直しをもって行動する	5	
	自分の健康に関心を持ち、病気予防などに必要な活動を進んで行う	4	
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する	5	
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	5	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりを深め、ルールを決めたり話し合いの場を作ることで一緒に遊んだり、活動に意欲的に挑戦する姿が見られた。 ・自分の意見をお互い出し合うことで、相手の気持ちに気づいたり、友達に自分の思いを知ってもらうことができたがストレートな物の言い方などでトラブルに発展することもあった。 ・4歳児のテーマ「こびと」への想い入れが強く、いろいろなこびとと出会い、それぞれの個性や特徴をとらえることで友達に対しても自分に対してもお互いに「ありのまま」を受け入れ、できない部分はお互いに助け合うこともできた。5歳児のテーマ「海」のように広く、深い気持ちをもってどんなことにもみんなで挑戦することができた。 ・劇遊びの時間を設け、クラス全体で話し合い、それぞれの個性を活かし発表することができた。それぞれが自分で考え、主体的に活動し、お互いを認め、高めることができた。
	自分で考え、自分で行動する	5	
	自分でできることは自分でする	5	
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4	
	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	5	
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	4	
	友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	5	
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	5		
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	4		
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	5		
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする	5		
共同の道具や用具を大切にし、皆で使う	4		
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	5		

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった



	結果	忘記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」		
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	5	・保育室内で魚を飼育したことにより、魚の生態を知ろうと本を読む子どもがいたり、赤ちゃんを産んだことに気づいたり興味や関心が高まった。水槽の水が少なくなっていたり、濁っていたりすると「魚が苦しそう」と言う子どももあり、命を扱う大変さや難しさを感じていた。産まれたばかりの赤ちゃんを他の魚が食べてしまう場面を目撃しショックを受けていたが、自然界ではこうしたことも起こることを伝えていった。 ・年間を通して、生活の中で自然に文字や数字に触れる機会を設けた。出席確認の際に「今日は2人休みです。全員で何人でしょう。」というような簡単な数の増減を取り入れ、口頭で説明するだけでなくホワイトボードに書いて視覚的に文字を認識できるように工夫した。
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	5	
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4	
身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	4	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	4	
身近な物を大切にする	3	
身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	
日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	5	
生活に関係の深い情報や施設などに関心や関心をもつ	4	
とねの会こども園内外の行事において国旗に親しむ	4	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」		
保育教諭等や友達との言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	・友達や保育教諭に対して、自分の思いを上手く表現している子どもがほとんどであったが、トラブルの際や自分がやってしまったという時には言葉に悩んでいる子どももいた。 ・友達に嫌な言葉を言ってしまう子どもに対してはその言葉の意味を伝え、使ってはいけないことを伝えるようにした。意味をよく知らずに使ってしまう子どももいたため丁寧に伝えるよう心掛けた。 ・初めて聞く言葉を伝える時にはホワイトボードに書いたり、復唱してみたりして言葉に親しみを持ってもらえるように工夫した。
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	5	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	3	
親しみをもって日常の挨拶をする	4	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	4	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	5	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」		
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなど楽しむ	5	・制作活動を通してハサミ、のり、絵の具、マーカー等の用具を用いてテーマに沿った作品を自分なりの表現で作り上げることができた。経験を重ねたことで工夫できるようになりイメージに近いものを作れるようになった。 ・障りの会等で振り返る時間を作り、一人ひとりの思いにじっくりと耳を傾けるようにした。相手に伝えたいという思いから「〇〇が楽しかった」と伝えるだけでなく、「〇〇と〇〇を〇〇したのが〇〇で楽しかった」など具体的に言葉を組み合わせて伝えられるようになった。 ・劇遊びの活動では、仲間とイメージを共有しながら役になりきって台詞を言ったり、演じてみたりして表現することをのびのびと楽しむことができた。
生活の中で美しいものを動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさ味わう	5	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	5	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	3	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさ味わう	4	
かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさ味わう	5	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

めだか

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
満3歳以上の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して様々な活動に意欲的に参加することができた。 ・特に水遊びや運動遊び等の戸外遊びでは、友達と一緒に身体を動かすことを楽しみ、入室の際には手洗い、うがいを丁寧に言い、感染症予防を自主的に行おうとする姿が見られていた。 ・夏・冬野菜を農園で育てることを通して生長を楽しみにし、収穫し、味わうことができ、食べ物への興味関心を持つことができた。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	4	
	進んで戸外で遊ぶ	5	
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	5	
	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4	
	健康な生活のリズムを身に付ける	5	
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4	
	とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	5	
	自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	4	
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	4	
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進級当初は新しい保育室に慣れず、保育教諭に一つ一つ確認していたが、少しずつ自分たちで考えて行動できるようになってきている。慣れてきたことで物の使い方が乱暴になる様子も見られるため、園の物品や自身の持ち物など大切に使用したり管理することを再度伝えていく。 ・友達との関わりも増えてきて、泣いている子や困っている子に自ら声をかけたり思いやりが見られる。トラブルの際に解決が難しい時は様子を見て仲立ちをするようにしている。
	自分で考え、自分で行動する	4	
	自分でできることは自分でする	4	
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4	
	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	4	
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	3	
	友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	4	
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする	4		
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	3		
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4		
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする	3		
共同の道具や用具を大切にし、皆で使う	3		
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	3		

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

5：たいへんよくできた
 4：よくできた
 3：できた
 2：ややできなかった
 1：できなかった



	結果	上記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」		
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	4	・季節の変化に気づけるような植物や事象等に自然と子どもたちが触れられるようにした。 ・普段の園生活の中で親しみを持って生長を楽しめるように保育室前の小山に様々な種をまいたり、一人一人の植木鉢を購入して球根を植えたりと環境を用意した。 ・以前から続けているカレンダーを用いた日付の確認、天気マーク、外の気温等から数字や文字への関心・興味が育まれてきている。 ・子どもたちの見やすいところに貼ったカレンダーを利用し、簡単なたし算やひき算を自然と生活の中に取り入れてきた。
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	4	
自然などの身近な事象に関心もち、取り入れて遊ぶ	4	
身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	4	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	3	
身近な物を大切にする	3	
身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	
日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	4	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	4	
とねの会こども園内外の行事において国旗に親しむ	3	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」		
保育教諭等や友達との言葉や話に興味や関心もち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	・友だちとの会話の中で優しい言葉が自然と出てくるが増えた。 ・一緒に遊んでいる時や製作の時には、相手に対して思ったことや伝えたいことを自分の言葉で伝えることができるようになってきたが、まだ難しい子へは気持ちに寄り添い、どんなことを伝えたいのかを聞き、一緒に考えながら自分で言葉を見つけられるよう支援している。
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	3	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	4	
親しみをもって日常の挨拶をする	5	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	4	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」		
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなど楽しむ	4	・散歩に行く時は聞こえてきた音や見えたものなどを自分なりの表現で伝える姿があった。友達の見聞きながら自分の意見も取り入れ表現する場面も見られた。 ・ハロウィンパーティーでは体全体を使って歌って踊り、楽しむことができ、自分だけのポーズなども考え発表することができた。
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	3	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	4	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	4	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう	4	
かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	3	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ひばり

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
満3歳以上の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	4	・進級・入園当初はオムツを履いている子もいたが、トイレトレーニングを個々に合わせたペースで丁寧に行っていくことでほぼ全員がパンツで過ごせるようになった。 ・水遊びの際には初めての水着の着用で嬉しい思いを表出していた。しかし、着用すると難しくなると多く、事前に家族でも自分で着脱できるように練習をお願いしたが、なかなか自分だけでは難しいこともあり時間を長く設けたり、必要に応じて丁寧に一つ一つ援助していくことでスムーズに着脱できるようになった。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5	・体の使い方が不器用で身体の硬さが見受けられたこともあり、朝の自由時間を使ってホールにて運動遊びを繰り返し取り入れる。「片足ジャンプ」「両足ジャンプ」「クマさん歩き」「カエル跳び」等々を取り入れ、サーキット方式でやることで体感がしっかりとってきた。
	進んで戸外で遊ぶ	5	・ルールのある遊びを取り入れることで十分に体を動かしながら楽しむことができた。
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	3	
	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	3	
	健康な生活のリズムを身に付ける	4	
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4	
	とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見直しをもって行動する	3	
	自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	3	
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	3	
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	5	・進級・入園当初は個々で同じ遊びを楽しんでおり、他者が使っている玩具がよく見えトラブルに発展することが多く見られた。 ・お友達とのコミュニケーションもまだ未熟さがあり、言葉で伝えるということも難しいようであったが、繰り返し玩具の貸し借りをする際には言葉で「貸して」や「いいよ」等その場に合った言葉を使いながら相手の気持ちも考慮するよう伝えていくことでスムーズに関わるようになった。
	自分で考え、自分で行動する	4	・グループ活動を通して、個から少人数へと関わり方にも変化が見られるようになり、さらに大きな集団で活動できるようになった。
	自分でできることは自分でする	3	・ルールのある遊びを取り入れることで約束事を守りながら集団で遊ぶことの楽しさを知り、集団遊びを「やりたい」という気持ちを育むことができた。遊びの中で一緒に遊んでいる子ども同士で遊びを広げ展開できるようになった。
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	3	
	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	5	
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	4	
	友達のよさに気付く、一緒に活動する楽しさを味わう	5	
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	5		
よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する	3		
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	5		
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付く、守ろうとする	3		
共同の道具や用具を大切に、皆で使う	3		
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	4		

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった



	結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」		
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さに気付く	4	・日々の戸外活動の中で、子どもたちが様々なシーンで草花や木の実、水や泥等を用いて自然と触れ合うことができていた。 ・おまごど等の見立て遊びを通して使用していた木の実に着目し、つぶして中の種子を観察したり匂いを嗅いでみたりする姿も見られより深く興味、関心を持つことができ、中には図鑑で何の木の実か調べる子どももいた。
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	・野菜の苗植えては毎日のように水やりや草取り等のお世話をしたり、生長を観察する中で食物の大切さを感じることができた。 ・散歩を通して圃場や近隣に植えてある果樹に興味、関心を持つことができていた。
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	3	・園の果樹については収穫時期まで観察を続け、保育教諭と一緒に収穫したり、収穫した実の細部まで観察することができた。 ・給食の先生方に協力していただきジャムやジュースに加工し、実際に食することで味を楽しむことができ、より一層興味、関心を深められた。
自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ	4	
身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	4	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	4	
身近な物を大切にする	3	
身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	3	
日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	4	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	3	
とねの会こども園内外の行事において国旗に親しむ	3	
(4) 言葉や表現に関する領域「言葉」		
保育教諭等や友達と言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	・日々の繰り返しの中で、挨拶の大切さを知り保育教諭やお友達と挨拶を交わすことができるようになった。 ・散歩へ出かけた時に自然と子どもたちの方から近隣の方へ挨拶する姿が見られるようになってきた。
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	・生活の中でも何かをしてもらった時等に「ありがとう」「お願いします」等必要な言葉を自ら選択して必要に応じて言葉で伝えられるようになった。 ・子どもたちで話し合う機会や考える時間を設けることで、言葉を使って自分の思いを伝えたり、逆にお友達の気持ちを聞いたりすることができ、自分たちで折り合いがつけられるようになった。
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分らなないことを尋ねたりする	4	・グループでリーダーとサブリーダーを決める時も子どもたちだけで決め方を話し合い、リーダーを選出することができた。 ・「聞く」という点では難しいところもあるようでなかなか今やるべきことができないこともあったが、絵本の読み聞かせや話を聞く時間を少しずつ長くすることで集中して長い時間聞けるようになってきた。
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	4	
親しみをもって日常の挨拶をする	4	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	3	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」		
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなど楽しむ	3	・四季折々のものに触れることで五感を養い、各々がその感想をお友達同士で共有したり、次の展開について話し合う等一つの事象で様々な思いを巡らすことができていた。 ・冬に氷を自分たちで作ってみたり、自然にふわふわドームに張った氷に触ったり観察することで、「ガラスのように透き通っている」ことや下に落とすと「カシャーン」とガラスが割れたような音がすることを発見できた。
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4	・「ヘンテコ合体」では普段使用する色画用紙より硬いカラー工作紙を使い、さまざまな形を組み合わせ、自分のイメージを形にした。ハトメでそれぞれのパーツを動かせるようにしたことで見立て遊びにも展開することができ、自分たちのイメージしたストーリーや配役を決め、繰り広げることができていた。
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	4	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	4	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	4	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど楽しむ	3	
かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	3	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のことまたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

うさぎ

		結果	左記項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
満1歳以上満3歳未満の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	4	・子どもの気持ちに寄り添う関わりをすることで保育教諭との信頼関係が築けるようにした。 ・場面に応じた言葉かけや気持ちを受け止めることで安心して過ごせるようにした。
	食事や午睡、遊びと休息など、とねの会こども園における生活のリズムが形成される	4	・体の使い方や体力差があるように感じた。 ・学年間での交流が少なかったので刺激し合う活動があってもよかった。
	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	3	・食事が個々に違っていたため、把握をして量を調節したことで、食事を完食できた喜びを味わうことができ食事量も増えていった。苦手な食材にも挑戦するようになり食への意欲が高まった。
	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4	・オムツからパンツへほぼ全員が移行できている。男の子は立ち便器に挑戦し慣れてきたところだが、失敗を恐れて便座で排尿する子どももいる。 ・パンツにできる意欲がない子どもや排便の間隔が掴めない子どもに関しては個別で対応している。
	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	3	
	まわりの人の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする	4	
	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	4	
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	4	・ひとり遊びを主にしていたが友達との遊び方を真似したり、遊びを共有して楽しさがわかってくると友達を誘って遊び、保育教諭が輪の中へ入ることでさらに人数が増えて興味を持つようになった。
	保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	3	・受容的な欲求が満たされず情緒が安定しなかった子どももいる。自我や正義感が出てくる年齢でもあり、友達との関わりの中でトラブルになることも多かった。その都度、言葉でのやり取りの仕方を伝えたり、約束や順番があることを伝えてきたことで少しずつ意識できるようになった。
	身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の園児と関わりをもって遊ぶ	4	
	保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身に付ける	3	
	とねの会こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く	3	
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	4	
	(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」		
	安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	3	・戸外に出ると季節の花に興味を持ち、触れたり、採ったり、においを嗅いでみたりと楽しみ、友達と共有する姿もあった。 ・絵本や紙芝居が好きで物語のある少し長い話も興味が出てきている。
	玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ	4	・保育教諭が様々な場面で色や形、数などを問いかけてきたことで認識できるようになってきた。 ・生き物にも命があるという理解がまだわからず、つぶしてしまったり、土に埋めてしまった子どももいた。
	身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	3	・行事に意欲的に参加する姿が見られ、季節に関する制作も取り入れてきたことにより由来を知り興味、関心を持つことができた。
	自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	3	
	身近な生き物に気付き、親しみをもつ	2	
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	4		

自己評価 【保育・教育】

<令和6年度> とねの会こども園



幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」			
保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使うとする	5		・「おはよう」「ありがとう」などの基本的な挨拶は保育教諭が積極的に伝えてきたことで子どもたちの耳にも自然に入り、伝えられるようにした。
生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける	4		・言葉数が増えてきたことで自分なりの言葉で伝えようとする姿がある。保育教諭が会話が成立するように代弁したり、友達同士で理解し合えるように仲立ちしてきたことで、子どもたち同士でも会話が成立するようになってきた。
親しみをもって日常の挨拶に応じる	5		・子どもたちがどんなふうにして伝えているのか傍で見守り、場合によっては正しい言葉の使い方、言い方も伝えるようにした。
絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	4		・まだ言葉が出ない子どもに関しては個々で理解できる力に差があるので個別で対応している。 ・トラブルが起こった時は、まだ上手く解決できないので引き続き、保育教諭の援助が必要である。
保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	4		・保育教諭がわかりやすい言葉ややり方等を見せて話をしてきたことで、話を最後まで聞けなかった子どもたちが最後まで聞いて行動ができるようになった。
保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	4		
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	4		
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	5		・砂遊びや粘土遊び、新聞紙遊びを多く取り入れてきたことで手先が器用に動くようになった。 ・季節の歌や体操が好きで親しみを持って取り組むことができた。子どもたちからリクエストを聞くことで積極的に参加する姿も見られた。
音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	5		・クッキングでは各テーブルごとに行うことで友達と感触やおいを楽しんでいた。また、さまざまな素材に触れる体験の中でどんな感触が言葉で表現できるように問いかけたり、共有したりすることで子どもたち同士の中で新たな発見があるように工夫した。 ・ちょっとした隙間時間に手遊びやまねっこ遊びを取り入れ、次の活動に移りやすいように工夫した。
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	4		
歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	4		
保育教諭等からの話や、遊びや生活の中での出来事を通してイメージを豊かにする	3		
遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	3		

ちどり

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
満1歳以上満3歳未満の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	5	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びでマット、平均台、トンネルなどを活動に取り入れることで子どもたちも体を動かす楽しさを味わいながらバランス感覚や体の使い方、体力などを身につけることができた。 ・排泄時のズボンの着脱から始め、帽子や肌着、トップスなどの着脱を進んで行い少しずつ自分でできるようになってきている。
	食事や午睡、遊びと休息など、とねの会こども園における生活のリズムが形成される	5	
	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	4	
	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4	
	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	4	
	まわりの人の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする	4	
	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	4	
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	5	<ul style="list-style-type: none"> ・4月頃は保育教諭とコミュニケーションが主だった。次第に周りのお友達にも興味が出てきたため、交友関係がより広げられるよう子どもたちの代弁をし仲立ちを行った。 ・子どもたちと信頼関係を築けるようコミュニケーションや手を繋いだり、抱っこ等のスキンシップを大切に保育を行った。 ・異年齢交流を通して他学年にも興味を持てるようにした。
	保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	5	
	身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の園児と関わりをもって遊ぶ	4	
	保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身に付ける	5	
	とねの会こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く	3	
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	4	
	(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」		
	安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	4	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな素材に触れる機会を多く取り入れた。小麦粉粘土あそび、新聞あそび、氷あそびなどは集中して取り組み、手触りや匂いなど五感を使っている色々な感触を味わうことができた。 ・絵本の読み聞かせや遊び、生活の中でさまざまな経験を重ねていくことで形、色、大きさなどを知ったり違いに気づけるようになった。
	玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ	5	
	身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	4	
	自分の物と人の物の区別や、場所感覚など、環境を捉える感覚が育つ	4	
身近な生き物に気付き、親しみをもつ	4		
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	4		

自己評価 【保育・教育】

<令和6年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ちどり

結果

左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」

保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする	5	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の関わりや仲立ちや場面に応じた関わり方を繰り返し伝えることで遊びの中でも「どうぞ」「ありがとう」などの簡単な言葉のやりとりから少しずつ言葉を覚え、自分たちでも気持ちを相手に伝えようとする姿が見られるようになった。 ・朝の会や絵本の読み聞かせなどの日々の積み重ねで座っていられる時間も長くなり、落ち着いて聞こうとする様子が見られるようになった。 ・言葉が理解できるようになると保育教諭の話にうなずいたり反応したり、絵本の読み聞かせ等では集中して聞く姿が見られるようになった。
生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける	4	
親しみをもって日常の挨拶に応じる	3	
絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	4	
保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	4	
保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	3	
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	3	

(5) 感性と表現に関する領域「表現」

水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・砂や小麦粉などの感触を楽しみながらさまざまな形を自ら作ったり、制作ではスタンプやフィンガーペインティングなどいろいろな技法を使い、十分に楽しむことができていた。 ・リトミックや体操をたくさん行ったことでリズム感が育まれ、曲が流れると自分なりに動きを表現しながら行うことができていた。
音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	5	
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	4	
歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	5	
保育教諭等からの話や、遊びや生活の中での出来事を通してイメージを豊かにする	4	
遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	5	

自己評価 【保育・教育】

<令和6年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ひよこ

		結果	左記項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
乳 児 期 の 園 児	(1) 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満ちし、心地よく生活をする	5	<ul style="list-style-type: none"> ・おもつ替えでは「綺麗になったね」や「すっきりしたね」等と声を掛けながら援助していくことで清潔になることの心地良さを感じられるよう配慮した。また、排泄を嫌がる子どもがいたため「嫌だね」「綺麗にしてからお遊びしようか」等、子どもの気持ちを尊重しつつ、一人ひとりに合わせた関わり方を心掛けた。 ・発達に遅れが見られる子どもに対して、保育教諭が一人付き、個々に合わせた関わりを丁寧に行い、その子どもに今どんなことを言ったら良いかという課題も見つけて保育をした。
	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす	5	
	個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ	5	
	一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする	5	
	おもつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる	5	
	(2) 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」		
	園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす	5	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの存在に気が付き、意識して生活することが出来るように、園内散歩や下駄箱までなど子ども同士で手を繋いで移動した。 ・玩具の貸し借りの際には「貸して」や「どうぞ」など友だちとのやり取りを積極的に行っていけるように見守ることを重視した。 ・必要に応じて仲立ちをして言葉でのやり取りをすることの楽しさを味わえるように援助した。 ・涙を流している友だちがいたら頭や背中を撫でて寄り添う姿も見られるようになった。
	体の動きや表情、発声、なん語等を優しく受け止めてもらい、やり取りを楽しむ	5	
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す	5	
	語り掛けや歌い掛け、発声やなん語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ	5	
	温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える	4	
	(3) 精神的発達に関する視点「身近なものとの関わり感性が育つ」		
	身近な生活用品、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・高野豆腐や寒天、小麦粉粘土、はるさめ、こんにやく等の食材で感触を味わえるよう活動では感触遊びを多く取り入れた。実際触った感触を保育教諭が代弁して言葉にしてあげることで感触・感覚の働きを豊かにするよう努めた。 ・布製や木製、プラスチック等さまざまな素材の玩具を用意することで、玩具に興味を持ち自分の好きな遊びを見つけて集中して取り組めるように、様々な素材に親しみ、掴んだり叩いたりすることを楽しめるようにした。
	遊びや生活の中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする	5	
一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る	5		
玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ	4		
あやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする	5		